

平成17年度大学・大学院における教員養成推進プログラムに熊本大学が選定

資質の高い教員を養成するための教育内容・方法の開発・充実等を行う特色ある優れたプロジェクトを選んで重点的な財政支援を行う文部科学省「大学・大学院における教員養成推進プログラム」に、全国大学等から101件の申請があり、結果34件（国立20件）が選定され、その中に、本学の「不登校の改善・解決に資する教育力の養成-大学院教育における系統的カリキュラムの創出と試行実践-」が選ばれました。

教育プロジェクトの概要

本教育プロジェクトは、大学院における教員養成カリキュラムとして、教育現場における重要課題である不登校の改善・解決に資する実践的能力を育成する系統的カリキュラムを提案し、その試行実践を行う。教育学部の不登校支援活動の実績と医学部の不登校予防治験を基盤とし、不登校支援理論を創出すると共に、不登校児童生徒の情動・行動・認知にアプローチする教科教育の特性を活かした実地研修を行い、その有用性を検証する。

教育プロジェクトの内容

不登校発現の形成要因としては、「家庭生活」、「学校生活」、「社会環境」及び「本人の問題」等々、近年、複雑・多様化すると共に、それらの要因がさらに複合化の傾向にあることが指摘できる。このような傾向は、不登校の解決の困難さを増幅させており、この課題の解決に資する教員としての資質能力の育成は、教員養成系の大学・大学院における極めて重要な使命であり、また、学校教育関係者、保護者等からも囑望されている。

本プロジェクトでは、不登校の持続要因に対して、不登校児童生徒の「情動」「行動」「認知」の三側面からアプローチする大学院教育における実地研修授業プログラムを作成・提起すると共に、不登校支援並びに不登校予知・予防に関わる基礎理論・応用理論を構築し、不登校の改善・解決に資する系統的カリキュラムを創出する。（図1参照）次いで、これまで本学が取り組んできた不登校支援活動の実績を基盤とし、熊本県内各地域における適応指導教室や教育現場等における実践事例を通して、教員としての資質能力を育成する。

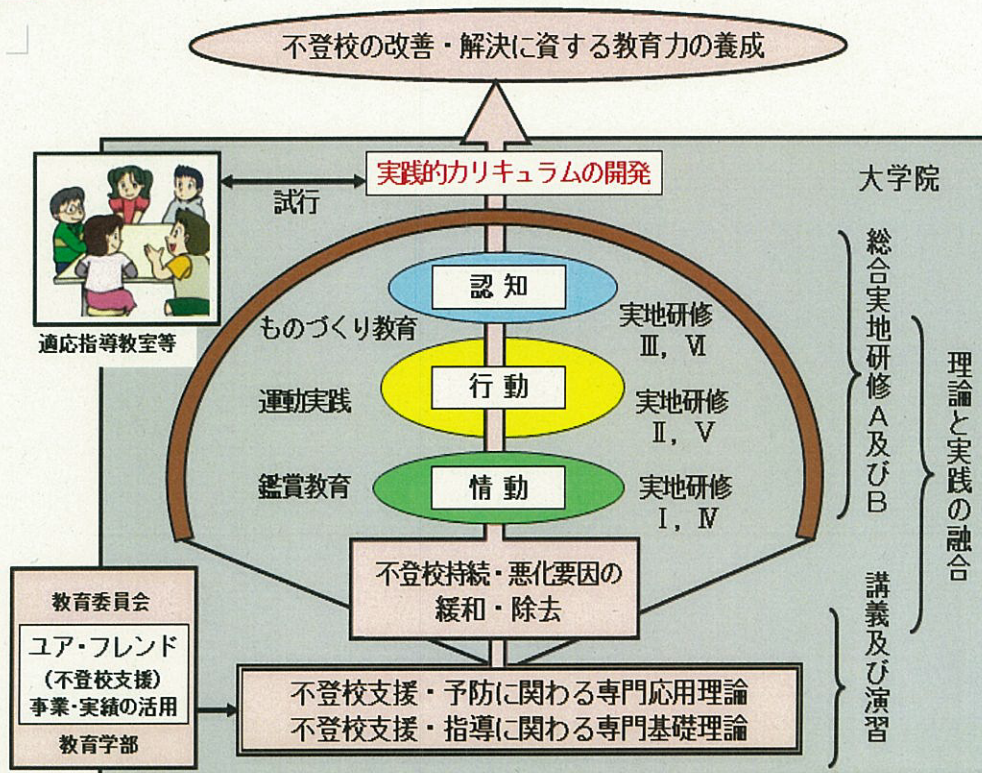


図1. 大学院教育における不登校支援カリキュラム構想